



世界は動く

米格付け会社ムーディーズ社がギリシャ国債を3段階格下げした(25日付、ダブルC格相当の「Ca」へ)。ムーディーズ社の格付け基準の中では下から2番目の低さとのこと。

欧州不安は未だ終了せず。円ドル為替は、80円の大打回復から更に遠のいた感が強い。今後、米ドルのじり安傾向から、年初来9%超上昇してきた米株も冷やされる可能性が大。

中国関連も目先は厳しい。第一回でみたように、物価上昇のピークアウト感が確認できれば、中国関連株は買い出動できるが、当面、その兆しが見られない。そうなると、金融引締め長期化による景気減速懸念が心配される。

週末の中国鉄道事故も世界的に波紋を呼びそうだ。中国政府は事故に関係なく、5か年の投資計画を遂行してくると思われるが、落下車両の「証拠隠滅」疑惑が広がりそうだ。「チャイナ・パッシング」による投資家離れも心配される。来月下旬まで、香港ハンセン、H株ともに軟調展開が予想される。

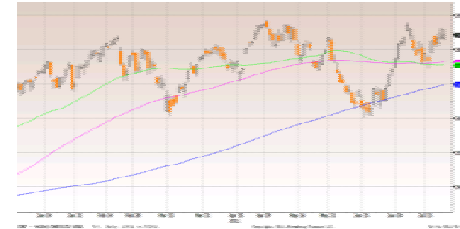
一方、経済好調なアセアン市場。特にタイとジャカルタは、株式市場が好調だ。年初来、各々8.5%、10%上昇し、年初来高値近辺の水準で推移している(T.O.)

市場の強弱感比較(2011年年初よりの推移、7月25日現在)

NYダウ(終値:12592.80)



ナスダック(終値:2842.80)



香港ハンセン(終値:22293.29)



香港H株(終値:12440.64)



タイSET指数(終値:1127.58)



ジャカルタ総合指数(終値:4087.09)

